



健やか豆知識

第33回

Q. 子どもの目薬を選ぶとき、避けた方がよいのは？



- Ⅰ しみない目薬
- Ⅱ 点眼回数の多い目薬
- Ⅲ 防腐剤が入っていない目薬

高田製薬は、患者さんや医療関係者の声に耳を傾け、医療ニーズに合った医薬品の開発と情報提供で、健康な社会づくりに貢献します。

— 人びとの健康を願って —
高田製薬株式会社

目薬は子どもに合ったものを使いましょう

花粉症は、鼻炎症状のほかに結膜炎の症状(かゆみや充血、異物感、流涙など)もよくみられます。花粉性の結膜炎は、空気中に飛散している花粉が眼を開いた時に露出する粘膜(結膜)に入り、アレルギー性の炎症が起こることで発症します。特にスギ花粉の飛散時期である春先に多くみられます。

小さな子どもは言葉で「目がかゆい」と訴えることができず、目をこするなどの行動で示します。しかし、目をこすると物理的な刺激で余計にかゆくなり、目の表面のバリアが壊れ、炎症もよりひどくなる場合があります。目が充血する、よく涙を流す、やたらと目をこするといった様子がお子さんにみられる場合や、すでに花粉症で受診している耳鼻咽喉科で処方された点眼薬でも、目の症状が改善されない場合は、一度、眼科を受診してみてください。他の目の病気である可能性もあります。

眼科での花粉性結膜炎の治療には、子どもの場合アレルギー用点眼薬を使用します。ステロイド点眼液は使用しません。同じ花粉症だからといって、保護者の目薬を子どもに使うことはやめましょう。

子どもの目薬には、目にしみない(中性)、点眼回数が少ない(園や学校での点眼を減らす)、防腐剤が入っていないものがありますので、医師や薬剤師などに相談するとよいでしょう。

また、子どもに目薬をさす際は、まずきちんと手を洗い、指で下まぶたを少し引いて、眼球ではなくまぶたの裏側に点眼液を落としてあげるとよいでしょう。子どもが目を閉じていても目薬をさすことができ、目薬を入れるところが見えないので、恐怖を感じにくくなります。

日頃からお子さんの様子(目をこするなど)を観察し、お子さんの目を花粉から守ってあげることが大切です。

監修 海老原 伸行 順天堂大学 医学部附属 浦安病院眼科 教授

< Ⅱ 掘玉 > さらに詳しい情報は
ホームページで!



⇒さらに詳しい情報は「クイズ解説」をご覧ください。